

2023年2月1日09:30 (日本時間) / 00:30 (協定世界時) まで公開禁止

auじぶん銀行 日本製造業PMI®

製造業の業況、1月は安定的に推移

主な動向

生産高と新規受注数の減少、2022年10月以来最も緩やかなペース

サプライチェーンの混乱は直近約2年間で最小規模

販売単価のインフレは過去16か月間の最低水準に低下

2023年1月のデータ収集期間：2023年1月12～24日。

最新のS&PグローバルPMI®データによると、製造業の生産高は1月も減少が続いているものの、その減少率は直近3か月間では最も緩やかだった。同様に、新規受注数は2022年末と比較すると減少ペースがわずかに低下。その一方で、雇用は22か月連続の純増が続いている。

1月は燃料コストの減少が原材料や光熱費の上昇分の相殺に貢献したことで、購買価格のインフレは緩和をみせた。結果、製造業の平均販売単価は増加したものの、2021年9月以来最も緩やかなペースだった。

1月の主要指数のauじぶん銀行日本製造業購買担当者指数™ (PMI) (製造業の全体的業況を表す指標)は、48.9を記録。変化なしを表す50.0の水準を3か月連続で下回っている。しかし、指数自体は12月から横ばいで、製造業の業況が全体的に安定的に推移していることを指摘していた。主要PMIに対するプラスの影響は主に、生産高の減少ペース鈍化と、新規受注数の減少が低水準で推移したためだ。

1月のデータは、製造業全体で生産高の減少がわずかだったことを指摘。また、減少ペースは2022年10月以来の最低水準だった。調査回答企業らは、顧客の需要低迷により生産計画が減ったこと、とりわけ電子部品のサプライチェーン全体で業況低迷が進んでいることを指摘。一方で、一部の企業からは原材料の調達回復と、在庫確保への取り組み強化が進んだとコメントが寄せられた。

1月は輸出売上の縮小が新規受注数の全体的な減少に影響。しかし、全体の新規受注数の傾向と同様、縮小率は過去3か月間で最も低水準だった。製造業は、欧州の顧客からの需要が伸びていることを指摘する一方で、アジア特に台湾の顧客からの売上が鈍化していると報告があった。

1月の需要の低迷や供給不足緩和といった要因により、製造業は受注残に生産能力を向けたことから、最新の調査では仕掛り業務の4か月連続の減少が指摘された。

長期的投資や生産能力増強の必要性により、1月は雇用がわずかに増加。しかし調査回答企業らによると、退職者に代わる人材補充がなかったため、従業員数の全体的な増加はわずかだった。

(次頁に続く)

auじぶん銀行日本製造業PMI
季節調整済み、>50 = 前月比で改善



出典：auじぶん銀行、S&Pグローバル

コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、エコノミクスディレクターのTim Mooreによる最新調査結果のコメント

「低迷する世界経済により、1月も日本の製造業の需要は引き続き減少している状況ではあるが、最新のPMI調査ではいくつかプラスの兆候がみられた。生産高と新規受注数の減少率は昨年10月以来の最低水準に低下し、製造業が長期投資計画に合わせて生産能力の増強に努めたことで、わずかとはいえ雇用者数は増加を維持した。

企業は、以前は供給不足の対応に追われていたが、2023年初頭には実際の生産計画とのより現実即した整合にフォーカスを移す中、慎重な購買活動と在庫戦略が続いた。最新の調査では、企業らが重要電子部品の在庫確保に苦慮する中で、サプライヤーの納期遅延は過去およそ2年間で最も小規模だったことを指摘した。

サプライヤー納期の継続的な改善と、パンデミックによる制約緩和への期待が、2023年初頭における企業の見通し大幅上昇を後押しした。今回の調査では、今後一年間で生産高が減少すると予測した企業に対し、その3倍に上る数の企業が生産高は増加すると期待している。これを受けて、製造業の全体的な景況感では2022年3月以来二番目に高い水準を記録した。」

日本の製造業は1月、低迷する需要が主な要因となり、購買活動と在庫戦略に慎重だった。最新のデータは、購買活動の減少が2020年9月以来最大だったことを指摘している。一方、購買品在庫の上昇はわずかにとどまり、完成品在庫は全体的に減少傾向が続いた。そうした中、サプライヤーの納期遅延は2021年2月以来最も低水準だった。これには、重要電子部品の供給に苦慮する中で、輸送に関しては遅延が少なかったことや、原材料の調達に全体的に回復したことなどが要因に指摘された。

世界的にサプライチェーンに対する期待が回復したため、1月の企業の見通しも上昇した。今後12か月間の生産高に対する見通しは、直近10か月間で二番目に高い水準を記録した。

購買コストのインフレは、多くの企業が輸入原材料の価格高騰を指摘したにもかかわらず、4か月連続で緩和した。これは製造業が高騰するコストの顧客への転嫁を控えたためであり、工場渡し価格の上昇率は2021年9月以来の最も小幅だった。

PMI生産高指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加

製造業生産高
前年比 (%)



出典: auじぶん銀行、S&Pグローバル、経産省

お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行

Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp

Laura Denman

エコノミスト

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス

電話: +44-134-432-7221

laura.denman@spglobal.com

SungHa Park

コーポレートコミュニケーションズ

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス

電話: +82 2 6001 3128

sungha.park@spglobal.com

調査方法

auじぶん銀行日本製造業PMI®は、S&Pグローバルが製造業約400社の購買担当者に毎月調査を行い、その回答をもとにまとめています。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数は購買担当者指数™(PMI)です。PMIは次の5つのサブインデックスの加重平均です: 新規受注(30%)、生産高(25%)、雇用(20%)、サプライヤー納期(15%)、購買品在庫(10%)。ただしサプライヤー納期指数は、結果として得られる数値が他の指数と比較可能になる計算方法で算出しています。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調査要因は必要に応じて修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2023年1月のデータ収集期間: 2023年1月12~24日。

PMI調査方法の詳細は、economics@ihsmarkit.comへお問い合わせください。

免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インクに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱漏、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものでなく、またこれにもとづきとらたけたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedの使用が許諾されたものです。S&P GlobalはS&P Global Ltd.及び/又はその関連会社の登録商標です。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含むいかなる情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱漏(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

auじぶん銀行日本PMIのスポンサーは

auじぶん銀行株式会社です

auじぶん銀行は2008年にKDDIと三菱UFJ銀行の共同出資により設立されたネット専門銀行です。「手のひらにある銀行」として、口座・金融商品・決済などに関して、スマホユーザー視点でサービス展開をしております。キャッシュカードなしで入出金が可能な「スマホATM」、為替相場の動きを予測する「AI外貨予測」、Amazon Alexaへの対応など、ユーザーエクスペリエンスを豊かにするために様々な取り組みを行っております。

S&Pグローバルについて

S&Pグローバル・インク(NYSE: SPGI)は、必要不可欠なインテリジェンスを提供します。適切なデータ、専門知識、コネクテッドテクノロジーの提供により、政府機関、企業、個人が確信を持って意思決定を行うことを可能にします。新規投資案件の評価から、サプライチェーンにおけるESGやエネルギー・トランジションまで、世界中において新たな機会を発掘し、課題を解決し、成長を加速させます。

世界の資本市場、コモディティ市場、自動車市場において、信用格付け、ベンチマーク分析、ワークフローソリューションを提供し、グローバルのお客様の成長発展を支援します。詳細についてはウェブサイトをご覧ください: www.spglobal.com

S&Pグローバルのプレスリリースを受け取りたくない場合は、katherine.smith@spglobal.comへお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。

PMI(購買担当者指数)

「購買担当者指数™(PMI®)」調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、ihsmarkit.com/products/pmi.htmlをご覧ください。